

三中だより

平成31年度 5月号



令和元年5月9日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 2)

作成者 校長 清水隆彦

学校行事は、一回り大きく成長する機会

校長 清水隆彦

新年度が4週目に入りました。部活動に1年生が加わり、初々しい声が響いています。慣れない朝練習に駆け込む新入部員の姿は、年度の初めによく見られる光景です。少しずつ中学生の生活パターンがつかめてきているようです。保護者の皆様も様々な形でご支援をお願いいたします。

さて、これから1学期には大きな行事が続きます。5月には2年生の下田移動教室、6月には運動会、3年生の修学旅行と続きます。本校では、それぞれの行事に生徒の実行委員を選出し、生徒のリーダーが中心となり各行事を運営していきます。生徒が一つの行事を準備し、実践し、まとめるというプロセスを経験することは、単なる行事の消化ではなく、生徒主体の自治活動にも結びつきます。学校行事を一つ終わると我々が想像する以上にはるかに大きく成長した姿を見ることができます。

5月初めの中間考査が終わるといよいよ運動会の練習が本格化します。運動会の朝練習に向かうお子様の背中をしっかりと押してあげてください。生徒を大きく成長させる各行事に今年はどのようなドラマが待っているのでしょうか。想像すると楽しみでなりません。

「さようなら」を告げる離任式(4/26)

4月26日(金)に、本年度本校を離任された5名の先生方をお迎えし、離任式を行いました。先生方の紹介に続いて、部活動でお世話になった代表の生徒による感謝の言葉、花束贈呈、そしてそれぞれの先生方からお別れの言葉が述べられました。

これまで三中のためにご活躍いただいた先生方にいつまでも名残は尽きませんが、先生方の今後のご活躍をお祈りしつつお別れしました。



【生徒代表お別れの言葉】



【盛大な拍手に送られて】

加藤 正恵先生 (現 豊島区立西池袋中学校) 国語科



現在、豊島区立西池袋中学校で仕事をしています。新しい学校です。人数は三中と同じくらいですが、敷地が狭いのでコンパクトな作りで三中ほど広くありません。

皆さんは恵まれた三中の環境を生かしてたくさんのことを身につけてください。他校でも頑張っている生徒がいることを意識して頑張ってください。

松浦 紀江先生 (現 渋谷区立鉢山中学校) 理科



今日三中に来て、三中にいたときのことをなつかしく思うというよりこれが普通だと感じてしまいます。今の学校で理科の授業をしながら、三中生だったらどのように答えるだろうと想像することがあります。三中で学んでいることをこれからも大切にしたいです。そのことは必ず将来生きるはずです。しっかりと力を中学校時代に身につけてください。もっともっと皆さんと一緒に授業したかったとは思いますが、新しい学校で頑張っていくのでも皆さんも頑張ってください。

行田 亜希子先生 (現 練馬区立大泉学園桜中学校) 保健体育科



3週間ぶりに見る三中生はますます立派になった気がします。新しい学校では三中生とは少し違う感覚を感じています。いつも三中生はよく走ったなと感じています。今日伝えたいことは「今をしっかりと生きていますか?」ということです。全力で取り組みれば必ず何かが残ります。もちろん乗り越えられない試練もあります。その時は周りの力を借りることがあってもいいのではないのでしょうか。何事も最後の終わり方を意識して頑張ってください。

青木 康乃先生（現 板橋区立第一中学校） 国語科



7年間お世話になりました。その間でいろいろなことがありました。その中でも三中生は挨拶が素晴らしいということが最も印象に残っています。他区の中学校に移って感じるのは、学校図書館、タブレットPC…等、三中の施設設備はとても立派だということです。本を1ページずつしっかり読み込むようにしていけば、必ず人生に必要なことが学べるはずです。これからも頑張ってください。

高橋 智貴先生（現 荒川区立第九中学校） 数学科



第九中学校に転勤して感じることは、三中の施設設備がとても良かったんだということです。これをあたり前だと思わないで頑張ってください。

3月31日の陸上部の最後の練習で生徒の皆さんと50メートル走をしましたね。何人かの生徒に負けてしまったのでいつかベンジしたいと思います。

【この5月号では、第三中学校に関する様々な情報をお知らせします。まず始めは、本校のホームページに掲載させていただいた校長挨拶です。学校便り2号は活字が多く、申し訳ありません。】

平成31年度 キャリア教育を基盤とした実践力のある学校を目指して

荒川区立第三中学校長の清水隆彦です。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。第20代の校長として5年目の年を迎えました。平成18年度より5年間、第三中学校の第18代校長として勤務しましたので、通算では第三中学校校長10年目となりました。歴代校長の中で最も長い在任期間となりますが、可能な限り大好きな第三中学校でこの記録を伸ばしていきたいと考えています。

昨年度は、運動会、輝夕祭での合唱コンクール、展示の部、各行事においていずれも大きな成果を上げることができました。また、各種学力調査においても全教科で国や都、区の正答率を超えることができたことも大きな成果でした。

本校の学校経営方針にある「教育品質第一で、常に質の高い教育活動を提供する学校」に近づくため荒川区教育委員会教育研究指定校として「基礎的・汎用的能力を育むアクティブ・ラーニングの在り方」の研究が4年間のまとめの年となりました。この研究は、令和2年2月7日（金）に全国より多くの皆様をお招きして研究発表会を実施する計画です。本校の研究は単に研究発表会だけを見据えて進めているのではなく、研究を進めながらその過程で教職員の資質向上を図ることにあります。資質向上という点では、東京都教育委員会が実施する教員研修にほぼ全員の教員が参加し、それぞれの資質を伸ばし、授業の質を高めるための取り組みも行います。

夕入の街にある本校は、常に町会の皆様、地域の大人の皆様が教育活動をご支援いただけるというのが大きな特徴だと考えています。本年度も地域行事、学校行事と常に地域と学校が一体となった学校創りを進めていく所存です。

さて、4月8日（月）には本年度の1学期の始業式、4月9日（火）には154名、5学級の新1年生を迎え、盛大に入学式が行われました。全校生徒478名、14学級と区内で最大規模の中学校として第三中学校の今年度がスタートいたしました。

私は荒川区の校長として勤務して14年目を迎えました。この間終始一貫して変わらないことは、キャリア教育の視点で学校改革を行うということです。学校教育では、ただ単に教科の知識のみを習得させるのではなく、将来社会に出て社会人として活躍するために、獲得した知識をいかに活用するのかを学ばせていきたいと考えています。10年後には、今の職業が半分はなくなっていると言われる時代、社会情勢が変化し、求められる資質・能力は大きく変化してきています。大学入試制度改革では、点数のみならず、スキルが試される時代に入りました。

現在、社会人として就職しても長続きしない若者、社会の変化に対応できない若者の問題が大きな社会問題となっています。仮に大学を卒業して社会に出るとすれば22歳であり、この年齢は中学校を卒業してからたった7年後ということになります。当然、それ以前にも社会人になる生徒はたくさんいる訳で、そう考えると社会人として求められる資質・能力は早い段階から育成しなければならないということになります。自己表現する力、課題を解決する能力、自分と意見が違っていても相手の意見を尊重しながら自らの考えをまとめる力、人間関係を形成する力、ICT活用能力…等、様々な能力を義務教育段階から育てる視点が重要であると考えます。まさに21世紀型スキルが求められています。



「ねらいが明確でないものに成果は期待できない」が私の学校経営者として理念です。ねらいをしっかりと定め、新学習指導要領の柱であるアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の在り方をさらに深く研究してまいります。荒川区の小中学校は学校図書館が整備され、全生徒に一人1台のタブレットパソコンが配置されるなど、教育環境は全国トップクラスにあります。これから求められる21世紀型スキルの育成をめざし、これまで取り組んできた学校図書館活用授業、タブレットPC活用授業をさらに充実させていきます。13年前より実施している夜間の補習活動「三中てらこや」も継続します。

今年度着任した教職員を含め、キャリア教育を基盤とした実践力のある中学校を目指してまいります。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【次に本校の学校図書館運営に対する考え方です】

学校図書館学習・情報センター化に向けた校長の基本的な考え方

キャリア教育の視点で行う学校図書館改革は授業改善へとつながる

～学校図書館の学習センター化、情報センター化で育てる情報収集力、分析力の育成～

一般的に、これまで「多くの学校図書館は50年間眠り続けていた」と表現されることがあります。確かに書籍の貸し出し、返却という形では何十年もの間利用されてきましたが、授業での活用とか、調べ学習という視点ではあまり活用されてこなかったことは事実で、眠り続けていたと表現されても仕方ないのかもしれませんが、今こそ学校図書館を読書センター機能のみならず、学習センター、情報センターとして機能させる必要があります。現在の授業改革には、学習内容の中に資料を取り込むことや学校図書館そのものを学習センターとして活用することで授業の手法が変わり、授業力向上へ結びつくこととなります。

また、キャリア教育推進の視点で言えば、学校図書館の学習センター化、情報センター化に向けた取り組みは、学校全体のキャリア教育推進という意味でも大きな役割を果たすこととなります。社会人として求められる情報収集力、分析力を培う場として位置づけます。本校では、生徒1人1台のタブレットパソコンが導入され授業活用が積極的に進んでおり、インターネットによる検索等、ICT活用の教育手法は格段の進歩を見せています。このICT機器を使いこなす能力の育成は極めて重要であり、必要なキーワードを打ち込んでそのことに関する情報の中から必要なものを選択する手法は社会人として身に付けておかななくてはならない重要な能力と考えます。

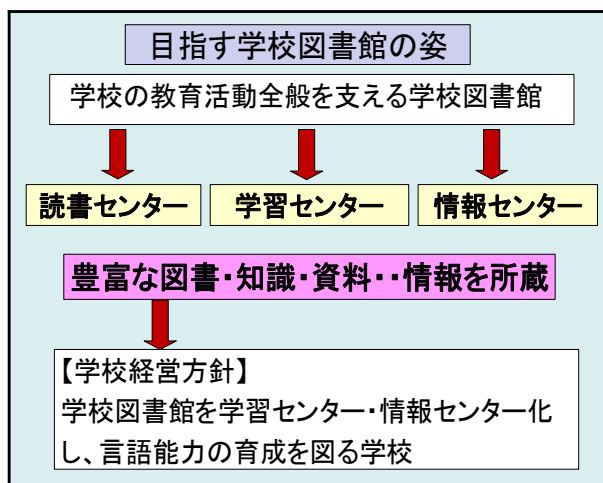
一方で学校図書館を活用し、たくさんの資料を選択し、書籍を読み込みながら必要とする情報を探し出すプロセスもまた重要な能力といえます。キャリア教育の推進という視点で考えるとICT機器活用と学校図書館の活用は常に車の両輪として進めていかなくてはならないのです。

1. 第三中学校の学校図書館学習センター化に向けたこれまでの動き

荒川区では平成18年度より「学校図書館活性化計画」に基づき学校図書館書籍の整備が進み、平成21年度には学校司書の全校配置を完了しました。これを受け区内各小中学校では学校図書館改革が進んでいきました。第三中学校では、どの学校より早く学校司書と教科担当による協働授業（コラボ授業）を実践し、平成22年に全国の小中学校の中から全国1位の賞である「学校図書館賞」を受賞しました。

2. 校長として学校経営方針に示した具体的な考え方（学校図書館を学習センター化・情報センター化へ位置づけた動機や思い）

- ① 第三中学校では、全教育活動でキャリア教育を推進するという学校経営方針に基づいて、学校図書館を活用することで社会人として必要な情報収集力、分析力を培う場所こそ学校図書館と考えます。
- ② 早い時期より大きく動き出した「学校図書館改革」は荒川区の重大施策であり、資料、学校司書全校配置という恵まれた環境を積極的に生かし、本校では授業改善へと結びつけていきました。現在、調べ学習や学校司書とのコラボ授業を含め、学校図書館活用は加速度的に広がりを見せています。昨年度は、年間を通じて学校図書館授業が行われ、その利用回数は450回を超えました。
- ③ 言語能力を培う場所こそ学校図書館であると考えます。言語能力の育成（新学習指導要領のねら



い)を推進するため学校図書館活用は不可欠です。

④ 学習センターとしての活用を進め、授業での活用方法を確立し授業力向上へと結び付けます。

一般的にこれまでの学校経営方針では、具体的な数値目標を示すことが少なかったと認識していますが、私は学校経営方針にこそ具体的な数値を明記すべきと考えています。数値目標を設定することで学校組織全体の取り組みが十分であったかどうかを検証します。ここで具体的な数値をどう設定するのかというと、当然、校長の独断ではなく、学校司書、司書教諭、学校図書館特命担当と綿密な打ち合わせを行い、その上で期待する目標値を設定します。そして数値目標が達成できなかった場合には、何がその原因で、どう改善すればクリアできるのかを議論します。そのプロセスこそが重要で学校図書館の活用につながるものと考えています。

【平成31年度、学校経営方針に示した数値目標】

<p>【学校図書館学習センター化・情報センター化推進事業】</p>	<p>【取組指標】</p>
<p>学校図書館を授業活用という視点で改善を図る。特に書籍使用のみならず、学校司書との協働授業（コラボ授業）やタブレットPCと書籍の併用等を積極的に取り入れる。</p>	<p>・学校図書館開館日245日以上を目指す。 ・学校司書と教科担当教員との「コラボ授業」を年間300時間以上学校図書館で実施する。回数とともに質の向上を図る。 【成果指標】 ・図書館利用者生徒数を累積16,000人以上、 ・貸出冊数累積8,000冊以上の数値目標を達成する。</p>

3. 三中学校図書館活用授業の実践

キャリア教育を前提とした授業改善には、ICT教育推進と学校図書館改革が大きな柱となります。第三中学校では、調べ学習を中心とした学校図書館活用授業を積み重ねてきました。このような学校図書館学習センター化を進めるには、当然これまでであった学校図書館がそのまま授業に使えるものではなく、授業

タブレットPCでの検索データと書籍を併用した授業の増加



書籍活用による調べ学習により、議論する能力の育成を図る



を前提にしたレイアウトの変更、資料の購入、保護者ボランティアの皆様による装飾やファイリングの作成、テーマに特化した資料コーナー等、情報センター化としての役割も極めて重要となります。これまで多くの皆様のご協力をいただきながら第三中学校の学校図書館改革が進められてきました。

学校図書館授業が単なるイベントや行事のまとめの作業をする場とするのではなく、日常的に授業で活用する場面を設定することが、授業の質の向上に結びつくものと考えています。大切なことは様々な要素（例えば学校図書館やタブレットPC…等）を取り入れることのみで授業が変わるのではなく、その要素を使い、どのような能力を育成するのかがしっかりと押さえられていなければならないと考えます。学校図書館活用により、社会人として必要な情報収集力、分析力を培い、そこで学んだクリティカルな読みや文章表現力は、荒川区の行事である「小論文コンテスト」「調べる学習コンテスト」等にも結びつきます。学校図書館という場での学びは、延長線上に社会人としての求められる能力を身につけることにつながると考えます。

単に授業活用を奨励するかけ声だけで学校図書館授業が進む訳ではありません。本校では学校司書による教職員向け図書館便りで最新情報や授業活用の要素、実践事例を紹介しています。授業で目指す方向性はメディアリテラシーを身につけよう、クリティカルリーディング、発表による自己表現と内容は様々です。学校司書と教科担当が授業での構成を練り上げ、学校図書館活用授業へと進めていきます。当然、学校図書館という場所だけでなく、カートで資料を移動させ、教室授業でのブックトークや必要に応じて授業を支援する書籍をそろえるなどの形式も進めています。

